



第3回「フレーベル館ものがたり新人賞」受賞2作品決定！
～未来の児童書業界をリードする、新しい才能を発掘！大賞作はフレーベル館より刊行予定～

株式会社フレーベル館（本社：東京都文京区、代表取締役社長：飯田 聡彦、以下「フレーベル館」）の創業110周年を記念して2017年にスタートした「フレーベル館ものがたり新人賞」の第3回受賞作品が決定いたしました。隔年開催となった第3回におきましても、多くのご応募をいただき、応募総数182作品のなかから、未来の児童書業界をリードしていく新しい才能にめぐり合うことが出来ました。大賞受賞作品につきましてはこれまで同様、フレーベル館より刊行予定です。

今後本賞を通じて、業界の活性化を図るとともに、子どもたちの健やかな育ちを支える「知」と「感性」にあふれた素晴らしい児童文学作品を、世の中に送り出していきます。

■第3回「フレーベル館ものがたり新人賞」受賞作品について

大賞 受賞作品

☆フレーベル館より刊行予定！☆

『ソラモリさんとわたし』 **はんだ浩恵** (はんだ・ひろえ)

小学校6年生の美話は、ある日、書きかけの詩が書かれたメモ帳を落としたことをきっかけに、ふしぎなおとな「ソラモリさん」と出会う。コピーライターのソラモリさんと美話とのあいだで行われる〈言葉のレッスン〉をとおして、美話は、きちんと使われていなかった自分の「言葉」と向きあい、父親にずっと言えなかった心のわだかまりを伝えるのだった。

優秀賞 受賞作品

『少年少女は真夏の屋敷で』 **高村 有** (たかむら・ゆう)

小学校6年生の珠紀には、見つけたいものがあった。それは、ここではないどこかにつながる「扉」。町探検を始めた珠紀は、古い屋敷と蔵を見つけ、心を奪われる。夏休みが始まり、珠紀が幼なじみの晴翔を誘ってその屋敷に行くと、そこには前日たまたま出会った、歴史好きで生意気な少年・蓮がいた。夏休みの間、蓮、晴翔と一緒に古文書探しをするうちに、珠紀は自分の探していた「扉」に気づいていく。

※尚、贈呈式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、関係者のみで4月20日(火)午後2時から日本出版クラブホール(東京都千代田区)にて開催する予定です。

※選考経過につきましては、「フレーベル館ものがたり新人賞」特設サイト (<https://www.froebel-kan.co.jp/award/>) でもご確認いただけます。

■第4回「フレーベル館ものがたり新人賞」について

本賞は、引き続き隔年で開催してまいります。

第4回「フレーベル館ものがたり新人賞」の募集開始は、2022年春を予定しております。

■フレーベル館の事業内容

「アンパンマン」シリーズや「ウォーリーをさがせ！」シリーズをはじめとした児童書の出版や、保育関連施設向けの遊具・教材・玩具の販売、そして室内あそび施設事業の展開など、子どもたちの健やかな育ちを支え続けるために、子どもに関わる事業を幅広く手がけています。

・フレーベル館コーポレートサイト <https://www.froebel-kan.co.jp>

